

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ステップハート新前橋		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 13日		2026年 2月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数) 15名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 13日		2026年 2月 19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 6日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児童の発達段階や興味関心に配慮した活動を計画・実施することで、主体的な参加につながる支援を行っていること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用児童の希望や好きな事も取り入れながら、活動内容や外出先を決めている。</li> <li>・授業日には、宿題や個別課題の時間を前後に確保しつつ、できるだけ近隣の公園に出かけ、楽しみながら体を動かす機会を作っている。</li> <li>・学校休業日や長期休暇には、遠出や川遊び、工場見学など、普段できない体験を提供できるよう心がけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外出や活動に伴う予期せぬ事故やケガに備え、職員の安全意識をさらに高めていく。</li> <li>・今後も一人ひとりの発達段階や興味関心に基づいた活動を企画することで、継続的な参加意欲につなげていく。</li> </ul>
2	職員一人ひとりがそれぞれの専門性や個性を活かしながら、活動の企画・提案から実践まで主体的に参画し、協働できる支援体制があること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業療法士が中心となり、日々の活動の内容や主たる療育のねらいが偏らないように組んでいる。</li> <li>・安心して過ごしていただけるためにも、職員が一体となって受容的態度で活動を実施することができている。</li> <li>・職員間で日々情報共有に努め、チームとして一貫性のある体制作りにも努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修や職員会議の充実を図り、支援の質を高めていく。</li> <li>・職員間の情報共有については、小さな変化や気づきも含めた情報共有を一層徹底し、課題の早期把握と未然防止につなげていく。</li> <li>・情報共有と振り返りを大切にし、組織として一貫性のある支援体制の維持・向上に努める。</li> </ul>
3	児童同士が相互に刺激を受けながら、自ら考え行動する力を育む活動や環境設定を行っていること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちで気づいて行動していくことの大切さを日々伝えていく。その結果、5分前行動、お手伝いなどを進んで行う習慣や助け合う雰囲気ができている。</li> <li>・月間目標を設定し、毎日帰りの会で振り返ることにより、より重点的に意識付けることができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ法人の別事業所や他のお子様と触れ合う機会を増やし、交流の幅を広げることで、社会への適応力や自己調整力を高めていく。</li> <li>・互いを認め合いながら成長できる集団作りをさらに意識していく。</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童の活動中の様子や事業所内の環境を直接見ていただく機会や、保護者会等による交流の場が十分に設けられていないこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブログや月2回の活動写真送信、日々の連絡帳、送迎時の報告等により、情報発信に努めているが、児童の活動中の様子を直接見ていただく機会は十分とは言えない。</li> <li>・駐車場の制限や立地条件により、保護者に室内の様子や児童同士の関わりを実際に見ていただく機会が少ない。</li> <li>・保護者会については、開催を希望しない家庭もあり、交流の場の設定が十分に図れていない。</li> <li>・事業所で行う面談や担当者会議は午前中が多く、活動時間帯の様子を見ていただく機会が限られている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館等の外部施設の活用を含め、保護者同士が交流できる機会の設定について検討を行う。</li> <li>・面談等の機会において、保護者の都合や職員体制を踏まえ、可能な範囲で活動の様子を見ていただく機会を設ける。</li> <li>・保護者会に限定せず、参観や親子行事、交流会等の形式を含め、参加しやすい形での開催を来年度に向けて検討する。</li> </ul>
2	職員間の連携や情報共有は行えているものの、より確実性と迅速性を高める余地があること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報共有が口頭、グループラインが中心となる場面が多い。</li> <li>・些細な気づきや変化が十分に記録、共有されない場合がある。</li> <li>・共有方法や記録様式に統一性の改善の余地がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さな変化や気づきも含め、共有する意識の徹底を図る。</li> <li>・情報共有の方法や記録様式の整理、統一を検討する。</li> <li>・定期的な振り返りの機会を活用し、共有体制の見直しを行う。</li> </ul>
3	標準化されたアセスメントツールを継続的に活用する体制が整っていないこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の観察を中心としたインフォーマルなアセスメントが主となっている。</li> <li>・フォーマルな評価方法に関する情報収集や研修機会が十分ではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援の客観性と再現性を高めるため、適切な評価ツールの選定を行う。</li> <li>・職員研修を実施し、段階的に導入を進める。</li> <li>・個別支援計画作成時に活用できる体制を整備する。</li> </ul>